

Graph Script 記述仕様書

じえいそにっく・らぼ

1 概要

Graph Script ファイルの記述仕様について説明します。

2 関係式の記述方法

関係式の記述は、以下の 3 通りの形式を用います。

記述形式（1 行に 1 つのエンティティまたは関係式を記述）

[ノード 0]	- 式 1
[ノード 1] 関連記号 [ノード 2] : タイプ	- 式 2
[ノード 1] 関連記号 [ノード 2] : タイプ (rel_name)	- 式 3

2.1 式 1：ノードの単項式

[ノード]

エンティティを記述する場合、Graph 上のノードとして名称を「[]」で括り、単項式として表現します。

2.2 式 2：関係式

[ノード 1] 関連記号 [ノード 2] : タイプ

ノードの並び

ノード 1、ノード 2 の並びは、生成順に左から右へ配置します。

関連記号（4 種類）

記号	意味
->	1:1 (ノード 1 からノード 2 へ)
->>	1:N (ノード 1 からノード 2 へ)
<-	1:1 (ノード 2 からノード 1 へ)
<<-	1:N (ノード 2 からノード 1 へ)

タイプ（関係の意味）

タイプ	意味	補足
include	含む	包含先を示す
ref	参照する	参照先を示す
subtype	継承する	継承元を示す
link	関係する	上記以外の関係（現状未使用）

2.3 式 3：関係式 + 論理名

[ノード 1] 関連記号 [ノード 2] : タイプ (rel_name)

rel_name は、関係式の論理名を示します。元ノードから先ノードへの関係に対して論理名を付与します。

例

[ノード] <- [エッジ] : ref (元ノード)

[ノード] <- [エッジ] : ref (先ノード)

3 コメントと空行：全体の記述ルール

行頭に # を付けるとコメント行になります。空行は無視され、構文解析に影響しません。